

令和5年度 特色ある学校づくり対策事業



佐世保市立鹿町小学校

所在地 佐世保市鹿町町深江730番地1
 校長 松田 禎治
 児童数 93名 学級数 8学級

学校教育目標・・・優しい心もち夢に向かってがんばる子ども

- ㊦ じっこうする子 ㊧ かんがえる子 ㊨ まごころのある子 ㊩ ちからづよい子

1 ねらい 学校教育目標の具現化を図るために、校長の経営方針に基づく創意工夫ある教育実践を行い、特色ある学校づくりを進める。

2 テーマ 「一人一人を大切にし、確かな学びを推進する」

○努力目標及び努力事項

- ①学力向上 ②豊かな心の育成 ③健やかな心身の育成 ④地域とともに歩む

3 実践内容

① 学力向上

○活動名 「学力テスト」

○実施学年 全学年

ねらい	○本校児童の学力を把握するとともに、これまでの結果と比較し、伸びや改善点をつかむことで、今後の授業改善や研究に役立て児童に学力を定着させる。 ○児童が自身の学習の定着や改善点を知り、今後の学校や家庭での学習の取り組み方に役立てる。		
実施時期	12月	活動場所	各教室
活動の概要	○1年間の学習の定着度を把握するために、国語科・算数科の標準学力調査を全学年で実施した。 ○調査結果を分析・考察し、補充学習に取り組んだり、全職員で改善策について共通理解し校内研修の視点に位置づけたりした。		
成果と課題	<p>[成果] 調査結果を各学年で分析・考察し、校長の指導のもと全職員で改善策を共有することができた。その後、授業や基礎基本の時間である「鹿町タイム」で指導を継続し、学力向上と授業改善に努めることができた。また、次年度の校内研究に向けて、学力向上の視点を見出すことができた。</p> <p>[課題] 各学年ともに多くの課題が見つかった。全校的には、国語科では「話すこと・聞くこと」、算数科では「図形」において課題が多い。今後も課題解決に向け、「過去問題」「ゆめあこ」「eライブラリー」「学びポケット」等で補充学習に取り組む必要がある。</p>		



○活動名 「サポートティーチャーの活用」

○実施学年 全学年

ね ら い	○地域人材をサポートティーチャーとして招き、全学年の算数科の授業に配置することにより、個に応じたきめ細やかな指導の充実と学習規律の定着を図る。		
実施時期	通年	活動場所	各教室
活動の概要	○年間を通して、地域の方（元小学校教員3名）を全学年の算数科の全授業に配置した。（1人あたり週4～12時間） ○授業中に集中できない児童や、指示を聞き取れない児童、理解が遅い児童への支援や個に応じた指導を行った。 ○担任と連携をとりながら、指導・支援の必要な場面や児童への対応を臨機応変に行った。		
成果と課題	<p>【成果】 児童の学習に対する興味関心が高まり、基礎基本の定着を図ることができ、学習規律の向上にもつながった。</p> <p>【課題】 地域人材の高齢化を鑑み、今後、サポートティーチャーとして協力できる方を探す必要がある。多くの人材を配置できれば、算数科以外の授業にも配置することができるであろう。</p>		

② 豊かな心の育成

「川調べ」

○実施学年 3学年

ね ら い	○校区内に流れる川を調査することを通して、鹿町町の自然の豊かさや素晴らしさに気づき、自然を守ろうとする心情を育てる。		
実施時期	9月	活動場所	鹿町川
活動の概要	○環境教育専門家の指導のもと、鹿町川にすむ生き物を採集し、川の水質検査を行った。		
成果と課題	<p>【成果】 実際に川の水を調べる活動を通して、鹿町町の自然の豊かさや美しさを再発見することができ、さらにふるさと鹿町を愛する気持ちを育むことができた。</p> <p>【課題】 川を調査するにあたって、天候に左右されることがあるので、早めに計画を立てたり、予備日を設定したりする必要がある。また、安全確保のため、地域や保護者との連携が重要であり、事前の打ち合わせが必要である。</p>		



○活動名 「花いっぱい運動」

○実施学年 全学年

ね ら い	○花いっぱいの学校をめざして栽培活動に取り組み、人のために役に立つ喜びや充実感を味わわせるとともに、生命の不思議や命の大切さを体感させる。		
実施時期	通年	活動場所	学校園
活動の内容	○縦割り班での活動として、学校管理員とともに種からの花苗作りを行い、玄関前の学校園に季節ごとの花々を植えた。 ○動植物委員会児童を中心に担当を決め、毎日水やりや草取りを行った。		
成果と課題	<p>【成果】 学校管理員の協力のもと、来校者を花で迎えようとするおもてなしの心やみんなのために役立つ喜び、充実感を味わわせることができた。</p> <p>【課題】 次年度も、異学年集団による縦割り活動の一環として取り組む。</p>		

③ 健やかな心身の育成

○活動名 「いも栽培」

○実施学年 第1・2学年

ね ら い	○保護者や地域の方々に指導を受けながら体験活動を通して、労働のたいへんさや感謝する心を育てる。 ○幼児とのふれ合いを通して、自尊感情を高める。		
実施時期	6～11月	活動場所	借用畑
活動の概要	○幼小連携教育の取組として、幼児と合同でいもの栽培に関わる一連の体験活動を企画した。地域の方の支援を受けつつ、ふれ合いや交流活動を行った。 ○命の尊さと植物の生長の喜びを実感させ、活気に満ちた学校生活を送らせた。 ○栽培活動を通して、地域の方とふれ合い、生命を大切にする心情を育てた。		
成果と課題	<p>【成果】 児童は、地域の方の指導を受けながら、いもさし、いもほり、焼きいも会を体験することで、植物の生長の喜びを実感し、潤いのある学校生活を送ることができた。幼児園との情報共有や相互理解も図ることができた。</p> <p>【課題】 天候によって、日程変更が必要となるので、実施するにあたっては関係者との調整を密にする必要がある。更に次年度は昔遊び交流などの活動を仕組んで、幼児や地域の方方との交流を広げたい。</p>		



○活動名 「米づくり」

○実施学年 5学年

ね ら い	○年間を通して総合的な学習で取り組んでいる「米作り」の活動を、その道に詳しい地域の指導者から指導していただくことで、感謝の気持ちや地域・郷土への愛情を育む。 ○日本の食文化としての米の価値や栽培方法を知り、食べ物や自然への感謝の気持ちと、豊かな心を育成する場とする。		
実施時期	5月～10月	活動場所	借用水田
活動の概要	○春に粃殻から苗作りを行った。そして、成長した苗で田植えを行い、成長した米を全員で稲刈り、天日干し、脱穀までの一貫した栽培活動を体験した。 ○収穫した米は、調理実習で使用したり、保護者に配付したりした。また、米づくりを通して学んだことを保護者に発表したり、地域の指導者に御礼の手紙を書いたりした。		
成果と課題	<p>【成果】 地域の方から指導を受けながら、年間を通して米づくりの知識と技術を学ぶことができた。まとめの学習を通して指導者への感謝の気持ちや、自然・郷土を愛する気持ち、勤労の喜びや尊さなどを育むことができた。</p> <p>【課題】 天候の具合により日程変更を余儀なくされる。自然災害やイノシシの被害にも注意が必要である。</p>		



④ 地域とともに歩む

○活動名 「人権標語づくり」

○実施学年 全学年

ね ら い	<p>○人権学習を通して、自分や相手の立場・思いを認めることの大切さを理解させる。その上で、人権標語づくりに取り組み、地域の人権啓発につなげる。</p> <p>○自分たちの力で解決していく意識を育て、様々な場面や状況下における具体的で実践的な態度や行動力を身につけさせる。</p>		
実施時期	12月	活動場所	各教室
活動の概要	<p>○道徳、学級活動等の時間に人権学習を行い、全校児童一人一人が人権標語づくりに取り組んだ。</p> <p>○集会には地域在住の障がい者を講師として招き、児童の心に響く講話をいただいた。</p> <p>○PTA連合会主催の人権標語コンクールへの応募を通して、自他の人権の大切さを新たに示した。</p>		
成果と課題	<p>【成果】 児童は授業や人権集会を通して、人権の大切さや相手の気持ちに寄り添って考え行動することを学ぶことができた。人権標語や人権宣言を掲示することで、人権教育の姿を広報することもできた。</p> <p>【課題】 時期が過ぎると、人権に対する意識が薄れる場合もある。意識の日常化・継続化とともに、いかに実践化に結び付けていくかが課題である。</p>		

○活動名 「招待給食／交流遊び・交流給食」

○実施学年 全学年／5年生

ね ら い	<p>○地域の方へ感謝の気持ちを抱き親睦を深める。</p> <p>○5年生と年長児との交流を深め、新入学に備える。</p>		
実施時期	2月	活動場所	各教室
活動の概要	<p>○地域人材を学校給食に招待し交流を深め、感謝の気持ちを伝えることができた。</p> <p>○5年生と年長児が交流することで、小学校の楽しさを知らせ、新入学に備えることができた。</p>		
成果と課題	<p>【成果】 新型コロナウイルス感染症が第5類になり、また各種感染症の状況を見ながら、地域対象の招待給食や園児との交流給食を再開できた。地域人材と交流を深め、感謝の気持ちを伝えることができた。5年生は、年長児と交流することで最高学年となる意識を高め、新入学に備えることができた。</p> <p>【課題】 次年度は更に、昔遊び交流などの活動を仕組んで、幼児や地域の方々との交流を広げたい。</p>		

